

## WHO カリキュラムに基づいた医療安全 post CC OSCE の開発

*Designing the Post Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination in Patient Safety  
based on WHO curriculum guide*

信州大学医学部附属病院 医療安全管理室  
助教 清水郁夫

### 研究期間

令和2年4月1日～令和4年3月31日

### 研究の概要

本研究では、Post-CC OSCE において医療安全コンピテンシーを総括評価するための妥当性の高い課題を開発することを目指した。

まず、研究者2名で、①試験時間7分程度、②WHOカリキュラムガイドおよび医学教育モデル・コア・カリキュラム（H28年度版）に合致していること、③診療参加型臨床実習で経験できる場面であること、④特殊な器具や準備は最小限にし、実施可能性を担保すること、⑤共用試験機構課題に準じた項目別評価と概略評価をつけられるようにすることを条件に4つの課題素案を作成した。

続いて、素案の内容妥当性を向上させるため、修正 Delphi 法によるコンセンサス形成ラウンドを実施した。パネリストとして医学教育専門家、臨床研修病院指導医、大学病院医療安全管理者（n=30）に承諾を得て、オンラインアンケートでWHOカリキュラムガイド、モデル・コア・カリキュラムとの整合性、OSCE実施可能性等を4件法で評価を受けるとともに意見を聴取した。得られた結果に基づいて課題を修正・追加し、再度回答を依頼した。このプロセスを全評価項目が平均値 $\geq 3.5$ 、標準偏差 $\leq 1$ に集約されるまで繰り返した。

結果として、22名（73.3%）から回答を得て、第2ラウンドにて全4課題（表）が所定の基準を満たしたため終了とした。

続いて上記のうち「インシデント発生時の患者対応」についてS大学6年次生（n=136）に対して実

施し、項目別評価の和について、概略評価との関係、および機構課題（3課題）の各評価項目との関係および同時期に実施された卒業時筆記試験との関係について、Spearman の順位相関係数を用いて検証した。

項目別評価の和と概略評価は高い相関があり（ $r=0.888$ ）各項目は想定した能力を判断できていると考えられた。機構課題（ $r=0.014\sim 0.113$ ）および卒業試験（ $r=0.228$ ）との相関は低く、これらの試験では測定できない能力であることが示唆された。

なお、当初の計画では、他大学にも学内課題として本研究成果を提供し、データを収集して妥当性の検証を行う予定であったが、令和2年春にはじまったコロナ禍の影響を受け、課題実施希望大学が現れなかった。研究期間を1年延長して実施大学を引き続き募ったものの、令和3年度も想定した形で学内課題を実施することは困難であった。研究分担者との討議の結果、予定していた広範なデータ収集は断念し、本助成を受けての研究は終了とした。令和4年度以降、感染状況が許すようであれば、Post CC OSCE とは独立した研究目的の模擬 OSCE として被検者をつのり、データ収集を行う予定である。

本研究成果は第15回医療の質・安全学会（2021）で第一報を発表したほか、続報を2022年度 Ottawa Conference および英文誌に投稿中である。

### 表 課題概要

術前マーキング
採血管の照合
注射のダブルチェック
インシデント発生時の患者対応